

071022 第2回市民科検討委員会 委員の意見

1 教育委員会挨拶

- ・ 前回の会議では、市民科の創設の経緯、市民科の内容、現在の状況等について共有をした。
- ・ また、それぞれの委員の皆様からご意見をいただいたところ。
- ・ その中で、これまでの市民科の振り返りとして、教師、児童・生徒を対象とした市民科に関するアンケートを実施する旨を確認した。調査研究会で精査した内容が協議内容となっている。
- ・ 今後の推進体制についても協議内容となっている。後ほど委員の皆様からのご意見を踏まえ、これからの市民科の充実に生かしていく。
- ・ 今後の検討に向けてご尽力をお願いしたい。

2 委員長挨拶

- ・ 現在、国の方の教育課程の基準の改定も着々と進んでいるところ。
- ・ 国の動向を視野に入れながら、品川の未来の教育を皆さんと図っていきたい。

3 協議

(1) 児童・生徒、教師調査について

・ 委員 A

アンケート項目の中で複数の因子や要素を含む質問がある。このままでも問題はなさそうだが、重点があるのならば絞ってもよいかもしれない。

・ 委員 B

児童生徒の発達段階によって市民科に対する意識や理解が異なるため、学年の回答を分けて分析することも重要である。

・ 委員 C

保護者の理解が不足しているため、保護者向けの市民科に関するアンケート実施を検討してもよい。

・ 委員 D

今後、経年変化を見られるようにしていくとよい。

・ 委員 E

家庭・地域との連携強化についての質問項目が不足しているため、地域人材の活用状況などを追加したほうがよい。

・ 委員 F

調査実施の際は、児童・生徒や教師に対して市民科の位置付けなどを丁寧に説明する必要がある。

・ 委員 G

児童・生徒の興味関心を把握する設問を追加し、児童・生徒の意見を反映できるようにするとよい。また、児童・生徒向けアンケートの表現について一部再考するとよい。

・ 委員 H

児童・生徒と教師への共通設問は同様の数とした方がよい。

・ 委員 I

市民科学習、一貫プラン、市民科といった表記を統一するなど分かりやすくした方がよい。

・ 委員 J

学校への依頼の際に、通知や説明など丁寧に展開していく必要がある。

委員の皆様からのご意見を受け、以下の点を改善しています。

- 1 市民科、市民科学習、一貫プランの言葉を「市民科」として表記を整理しました。
- 2 アンケート項目で複数の因子が指摘された、児童・生徒アンケート9年生用(4)、6年生用(3)(4)(5)について因子を一つに整理しました。
- 3 表現内容について指摘のあった、児童・生徒用アンケート6年生用(3)について、表現の修正をしました。
- 4 市民科についての設問の数が児童・生徒用と教師用で異なっていたものを同数にしました。
- 5 家庭・地域との連携について、地域人材の活用についての調査を追加しました。
- 6 実施に際しての周知に向けては、通知文への記載内容、校長連絡会等での周知など丁寧に進められるようにしていきます。

※ 11月から12月の間に調査を実施していきます。

(2) 推進体制について

・委員 A

研修の充実は大切で、市民科を新しいものにしていくのに重要な機会となるため進めてほしい。

・委員 B

新しい取組が多くなると先生方の負担となるため配慮が必要。保護者にも分かりやすい取組を進めてほしい。

・委員 C

調査の結果などを踏まえながら推進体制を充実していくことが大切である。

・委員 D

家庭・地域との連携は学校の過負担としないようにしていく必要がある。キャリア教育の充実についても検討してほしい。地域人材との連携強化が重要。

・委員 E

探究的な学習の充実に向けては、学校図書館の充実が重要。学校単位で SNS などでの情報発信の迅速化も必要。

・委員 F

先生方の負担軽減のための取組(ボランティアの活用など)や、児童・生徒の主体的な参加を期待していく視点も大切である。

・委員 G

ICT ツールの活用などで先生方の負担軽減ができるのではないかと。保護者への情報発信を充実していくことも重要である。

・委員 H

新しく来た教員が市民科を理解するために研修機会は大切である。一方で、負担感につながらないようにバランスを意識してほしい。

・委員 I

学校によって市民科の推進状況に差がある。教育課程上の調整や充実に向けて、指導主事による学校訪問は重要な機会となってくる。

・委員J

地域連携の幅広さへの意識が必要。予算の確保など、負担軽減に向けた取組を推進していく。

次年度の推進に向けては、教育委員会が主体となって進める内容、教育委員会と学校が連携して進める内容、学校が主体となって進める内容を整理し、過度な負担となることがないように配慮しながら進めていきます。

4 委員長からのまとめ

具体的な推進体制を市民科がリニューアルする前に進めていく提案は好ましい点である。委員の皆さんから様々ないただいたご意見はそれぞれ重要な視点。実際にどこにウエイトをかけ、磨いていくのか検討して行ってほしい。最終的にはこの New 市民科が、品川の子供たちにとって、保護者の皆さん、学校の先生方にとって価値あるものにしていくことが重要になる。

現在関わっている学習指導要領教育課程の基準の改訂に向けては、今回かなり積極的に変えようとしている。常に国の動向を注視していく必要がある。このタイミングで検討しているのは非常によいタイミングではある。この好機を逃さずに一体となって進めていけばならない。